

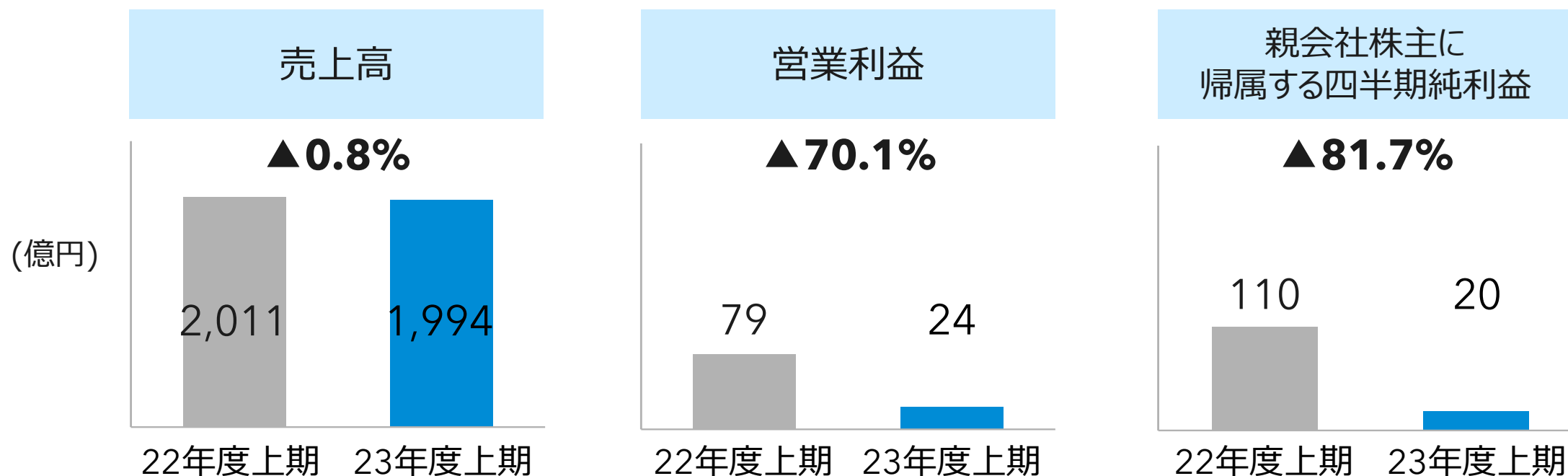
2023.11.9

# 2023年度 第2四半期 決算説明

東洋紡株式会社

## 第2四半期累計実績

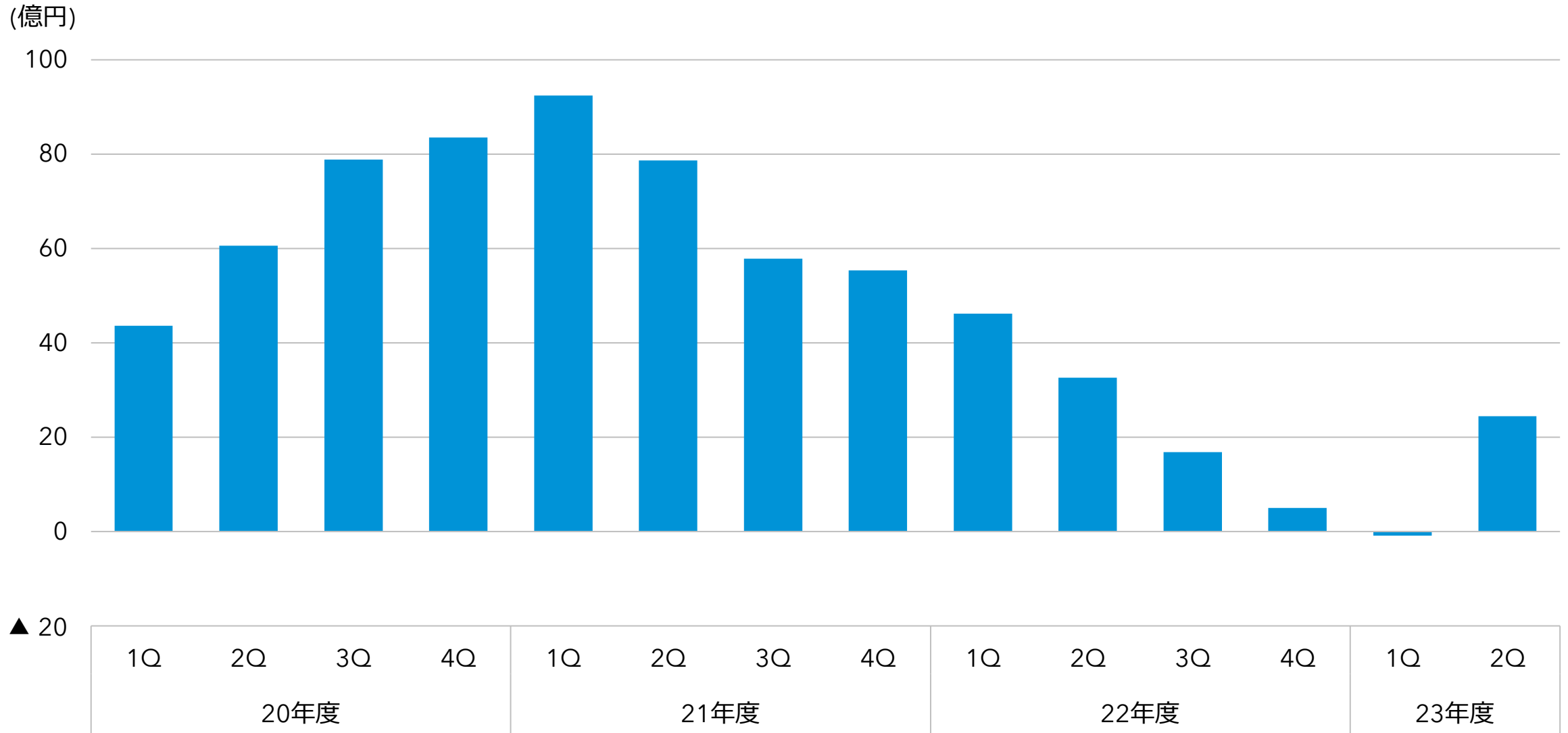
液晶偏光子保護フィルムは販売を伸ばすも、PCR検査用試薬の需要減に加え、包装用フィルムの数量減や新機台立上げ費用計上により、減収減益。四半期純利益は 20 億円



## 2024年3月期通期予想

フィルムの緩やかな需要回復、原燃料価格の高止まり影響を踏まえ、営業利益を 100 億円に下方修正。当期純利益は 10 億円を予想。配当は据え置きを予定

# (参考) 四半期別営業利益推移



▲ 20

# 23年度上期の事業環境（当初想定との差異）

セグメント	事業	当初想定（23年度上期）	現状（23年度上期）	
			対想定*	当初想定との差異
フィルム	包装用	流通在庫の調整が段階的に解消	▲	在庫調整の長期化で需要回復遅れ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは需要堅調	○	中国向けの出荷堅調
		MLCCはサプライチェーン全体での在庫調整	—	—
ライフサイエンス	バイオ	PCR検査用試薬の需要大幅減	▲	5類感染症移行により、需要は激減
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	○	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産台数の回復（半導体不足の解消）	—	—
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復	▲	需要回復遅れ
	環境・ファイバー	VOC回収装置は需要堅調	—	受注は堅調
		不織布マテリアルは競争激化	▲	事業環境の競争激化（衛材、土木）
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産台数の回復（半導体不足の解消）	—	—
共通		原燃料価格高騰の影響残る	—	—

\*当初想定に対し、○：改善・拡大、—：想定通り、▲：悪化・減少

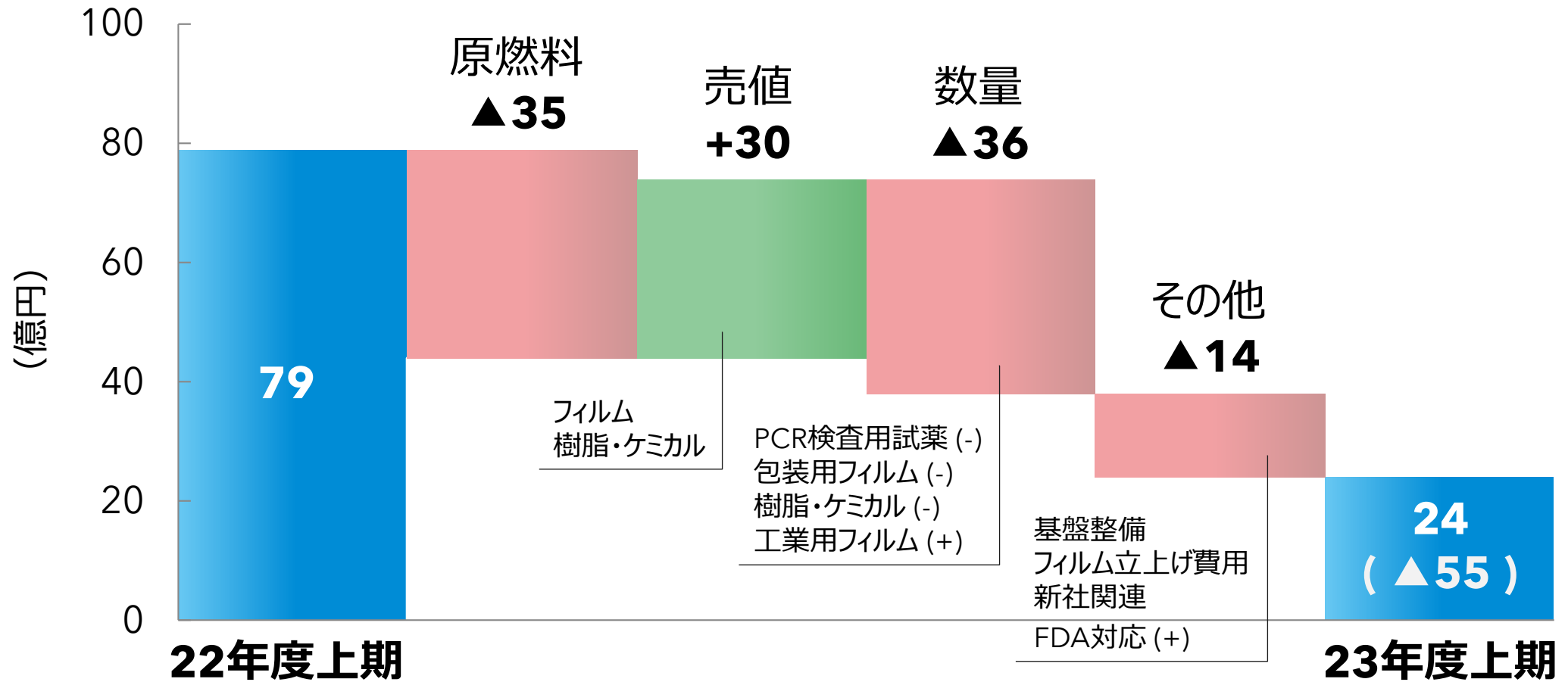
# 決算サマリー | PL

**TOYOBO**

(億円)

	22年度		23年度	増減	
	上期	下期	上期	金額	率
売上高	2,011	1,988	<b>1,994</b>	▲ 17	▲0.8%
売上総利益	452	398	<b>418</b>	▲ 34	▲7.6%
営業利益	79	22	<b>24</b>	▲ 55	▲70.1%
(率)	3.9%	1.1%	<b>1.2%</b>	-	-
経常利益	68	▲ 2	<b>10</b>	▲ 57	▲84.7%
特別損益	81	▲ 141	<b>20</b>	▲ 60	▲74.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	110	▲ 116	<b>20</b>	▲ 90	▲81.7%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	175	116	<b>118</b>	▲ 57	▲32.8%
EPS (円)	123.4	▲ 130.8	<b>22.8</b>	-	-
ROE* <small>* 23年度上期は年換算ベース。 (四半期純利益×2)÷期首・期末平均自己資本</small>	-	-	<b>2.1%</b>	-	-
営業CF	122	▲ 44	<b>101</b>	▲ 21	-
減価償却費	96	94	<b>94</b>	▲ 2	▲2.3%
設備投資	175	253	<b>300</b>	+125	+71.5%
研究開発費	72	69	<b>77</b>	+5	+6.9%

# 営業利益の増減要因



	21年度		22年度				23年度	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
為替レート (円/US\$)	114	116	130	138	141	132	137	145
国産ナフサ (千円/kl)	61	66	86	81	72	67	67	64

	(B)		(A)	(億円)
	22/3末	23/3末	23/9末	増減(A)-(B)
総資産	5,178	5,889	<b>5,772</b>	▲ 117
現預金	272	607	<b>299</b>	▲ 308
棚卸資産	960	1,219	<b>1,275</b>	+56
有形固定資産	2,276	2,402	<b>2,618</b>	+216
純資産	1,971	2,214	<b>2,218</b>	+4
自己資本	1,949	1,896	<b>1,903</b>	+7
うち利益剰余金	747	705	<b>690</b>	▲ 15
非支配株主持分	23	318	<b>315</b>	▲ 4
有利子負債	1,912	2,294	<b>2,196</b>	▲ 98
D/E レシオ	0.98	1.21	<b>1.15</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.4	5.8	<b>8.1</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

# 決算サマリー | セグメント別

**TOYOBO**

	売上高			営業利益				
	22年度		23年度	(B) 22年度		(A) 23年度	増減 (A)-(B)	
	上期	下期*	上期	上期	下期*	上期		
フィルム	743	717	<b>781</b>	24	▲ 8	<b>14</b>	▲ 10	
ライフサイエンス	193	188	<b>166</b>	54	38	<b>24</b>	▲ 30	
環境・機能材	557	551	<b>525</b>	21	19	<b>4</b>	▲ 18	
機能繊維・商事	453	470	<b>457</b>	▲ 11	▲ 14	▲ <b>9</b>	+3	
不動産・その他	64	62	<b>66</b>	10	12	<b>14</b>	+4	
消去・全社	-	-	-	▲ 19	▲ 25	▲ <b>24</b>	▲ 4	
合計	2,011	1,988	<b>1,994</b>	79	22	<b>24</b>	▲ 55	

\*新セグメントでの22年度下期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。



# (参考) 四半期別営業利益推移 (セグメント別)

(億円)

	22 年度				23 年度	
	1Q	2Q	3Q*	4Q*	1Q	2Q
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	12	2
ライフサイエンス	21	33	26	12	14	10
環境・機能材	9	12	8	11	▲ 7	10
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 1
不動産・その他	3	6	7	5	4	10
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 17	▲ 7
合計	46	33	17	5	▲ 1	24

\*新セグメントでの22年度3Q~4Q実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

(億円)

	22年度			23年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	392	352	743	390	391	781	+37	+5.0%
営業利益	25	▲ 0	24	12	2	14	▲ 10	▲ 41.0%
(率)	6.3%	-	3.3%	3.2%	0.5%	1.8%	-	-

## 包装用フィルム

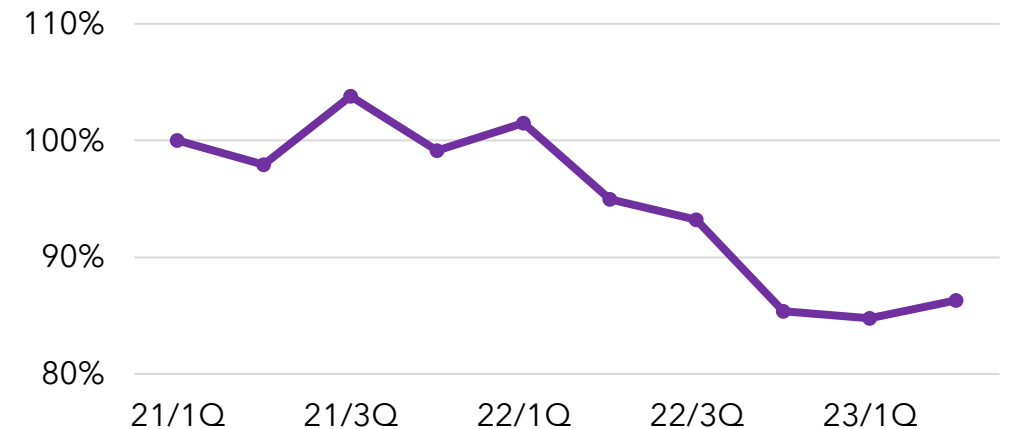
- 価格改定を進めるも、流通在庫調整影響による数量減に加え、新機台の立上げ費用が続く

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、中国向けを中心に数量増
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、需要回復に遅れ

食品包装用OPP\*フィルム国内市場 出荷実績  
(21/1Q = 100%)

\*二軸延伸ポリプロピレン



出所：日本ポリプロピレンフィルム工業会・会員出荷統計をもとに当社作成

(億円)

	22年度			23年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	87	106	193	81	84	166	▲ 27	▲ 14.2%
営業利益	21	33	54	14	10	24	▲ 30	▲ 55.7%
(率)	24.6%	30.9%	28.0%	16.6%	12.4%	14.5%	-	-

## バイオ

- 新型コロナウイルス感染症向けPCR検査用試薬が大幅に減少
- 生化学診断薬用原料酵素は、国内外で出荷堅調

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調

## 医薬

- FDAより Warning Letter の解除（2023年7月）を受け、収益改善

(億円)

	22年度			23年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	279	278	557	250	276	525	▲ 32	▲ 5.8%
営業利益	9	12	21	▲ 7	10	4	▲ 18	▲ 82.6%
(率)	3.3%	4.3%	3.8%	-	3.7%	0.7%	-	-

## 樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、国内の自動車生産の回復により出荷増
- 工業用接着剤“バイロン”は、中国向けの電子部品関連の落ち込み影響あり

## 環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、期ズレにより売上減少も、LIBS\*製造工程用のVOC回収装置が受注堅調
- 高機能ファイバーは、“ツヌーガ”の耐切創手袋用途の販売回復に遅れ
- 不織布マテリアルは、原燃料価格高騰の影響あり。衛材・土木向けの数量減

\*リチウムイオン電池セパレータ

(億円)

	22年度			23年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	222	232	453	222	235	457	+3	+0.7%
営業利益	▲ 4	▲ 7	▲ 11	▲ 7	▲ 1	▲ 9	+3	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

## 衣料繊維

- 不採算商品の見直しと製品価格の改定が進み収益が改善
- 富山事業所の拠点集約が進捗

## エアバッグ用基布

- 数量回復と製品価格の改定、販売条件の見直しが進み、赤字縮小

# 2023年度 業績見通し

フィルムの緩やかな需要回復、原燃料価格の高止まり影響を踏まえ、営業利益を100億円に下方修正。  
当期純利益は10億円を予想。配当は据え置きを予定

(億円)

	22年度	23年度			増減		直近予想 (23/08)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	3,999	1,994	2,106	<b>4,100</b>	+101	+2.5%	4,300
営業利益	101	24	76	<b>100</b>	▲1	▲0.6%	150
(率)	2.5%	1.2%	3.6%	<b>2.4%</b>	-	-	3.5%
経常利益	66	10	50	<b>60</b>	▲6	▲9.0%	110
特別損益	▲60	20	▲34	▲ <b>14</b>	+46	-	▲20
親会社株主に帰属する当期純利益	▲7	20	▲10	<b>10</b>	+17	-	40
EBITDA	291	118	182	<b>300</b>	+9	+3.0%	360
EPS (円)	▲7.4	22.8	▲11.5	<b>11.4</b>	-	-	45.0
減価償却費	190	94	106	<b>200</b>	+10	+5.0%	210
設備投資	427	300	260	<b>560</b>	+133	+31.0%	500
研究開発費	141	77	83	<b>160</b>	+19	+13.4%	160

# セグメント別見通し

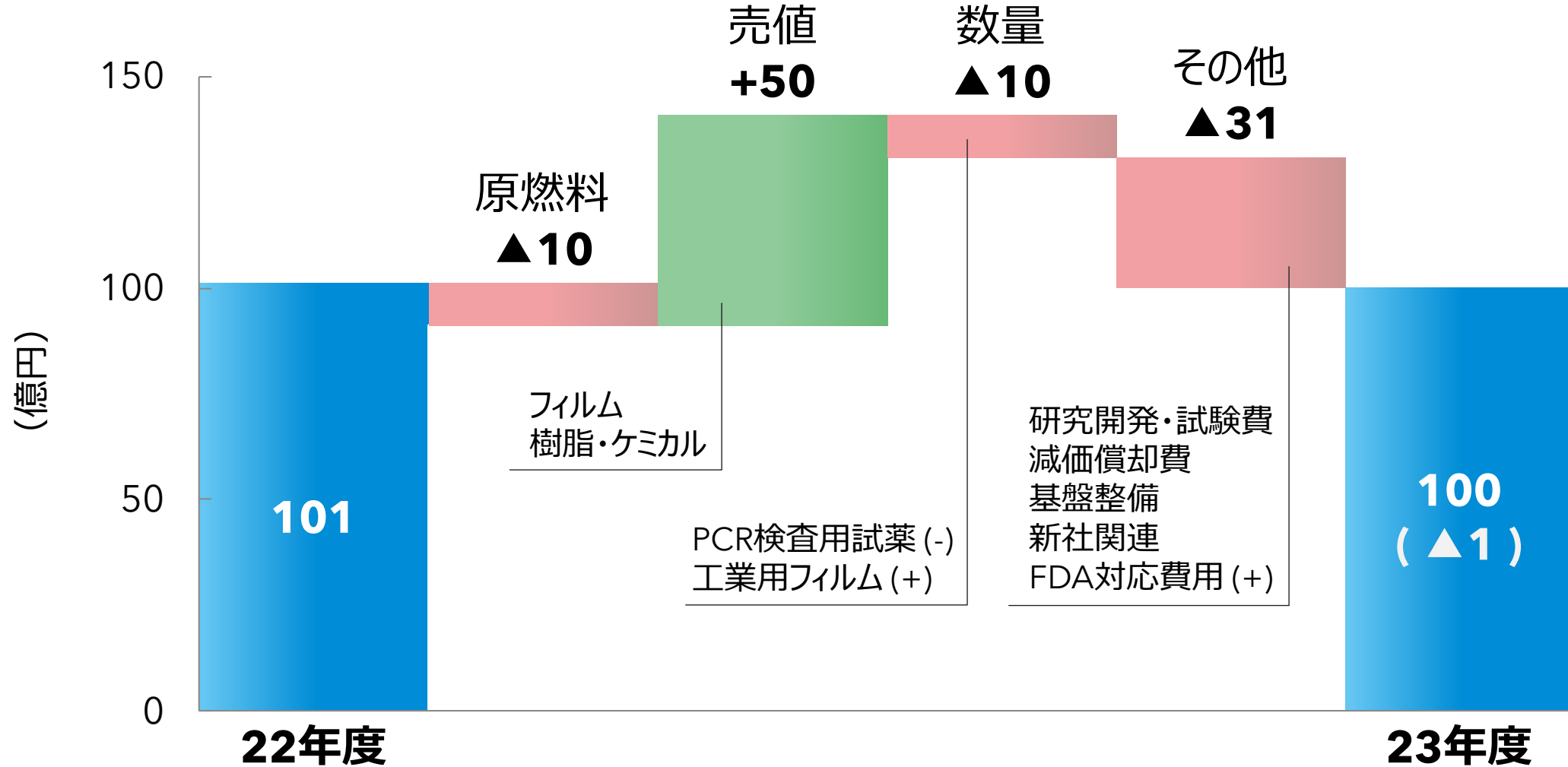
TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (23/8)
	22年度 実績*	23年度 見通し	22年度 実績*	23年度 見通し	増減	
フィルム	1,461	<b>1,550</b>	16	<b>55</b>	+39	88
ライフサイエンス	381	<b>340</b>	92	<b>47</b>	▲45	52
環境・機能材	1,108	<b>1,150</b>	40	<b>30</b>	▲10	58
機能繊維・商事	924	<b>930</b>	▲25	▲ <b>12</b>	+13	▲15
不動産・その他	126	<b>130</b>	22	<b>25</b>	+3	22
消去・全社	-	-	▲45	▲ <b>45</b>	▲0	▲55
合計	3,999	<b>4,100</b>	101	<b>100</b>	▲1	150

\*新セグメントでの22年度通期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

# 営業利益の増減要因



	22年度	23年度	直近予想 (23/8)
為替レート (円/US\$)	135	145	138
国産ナフサ (千円/kl)	77	70	61



## 未来をつくるため稼ぐ力を取り戻す

### 1. 安全・防災・品質、コンプライアンスの徹底

### 2. 稼ぐ力を取り戻す

- ① 価格改定：価値に見合った価格へ。供給責任を果たすため。未来をつくるため
- ② コストダウン：製造・調達・物流、販管費の絞り込み
- ③ キャッシュフロー改善：在庫圧縮、設備投資の絞り込み、投資効果の発現
- ④ 要改善事業への対策・取組み

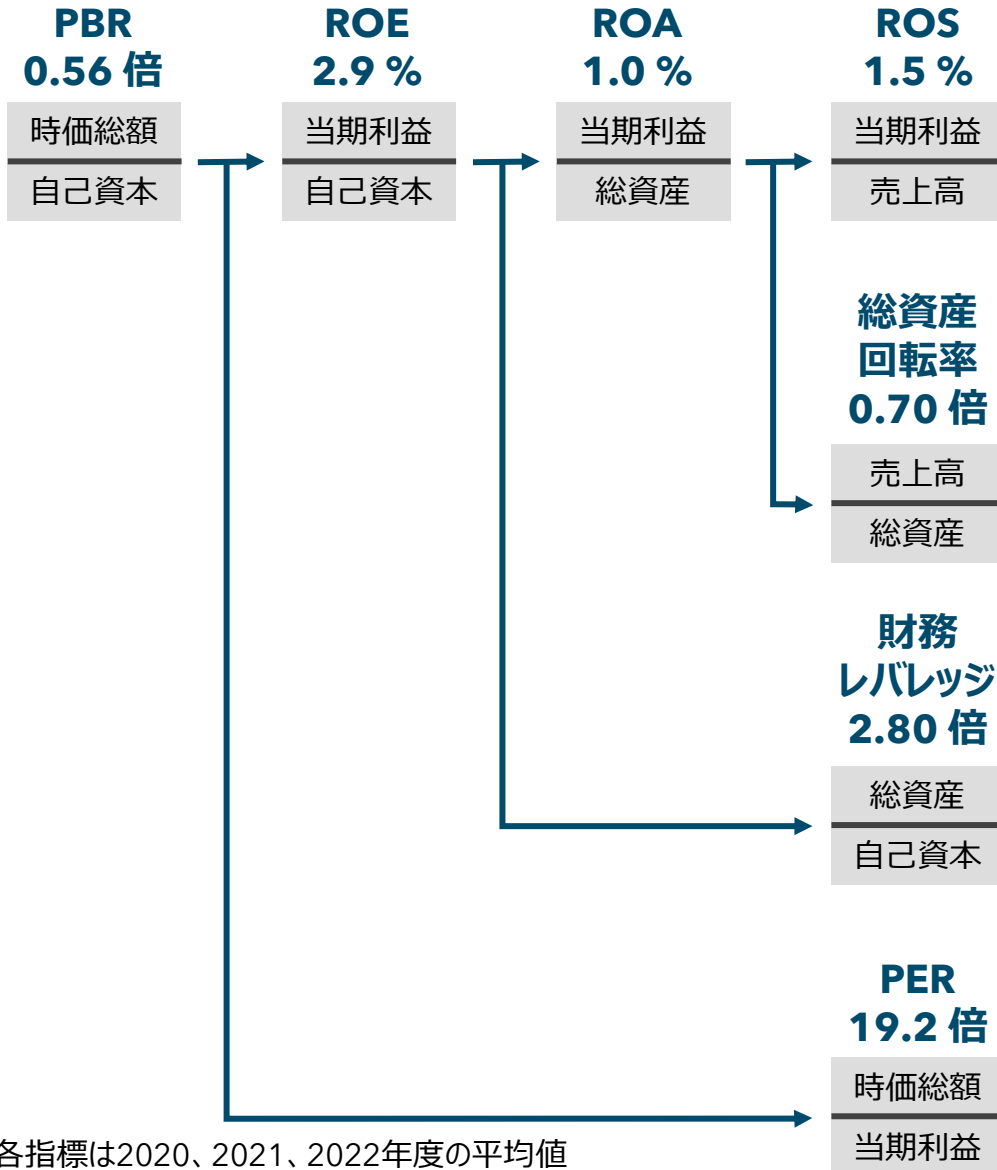
### 3. 中計 4 つの施策の実行

- ① 安全・防災・品質の徹底
- ② 事業ポートフォリオの組替え（要改善事業の対策、東洋紡エムシー株式会社の立上げ）
- ③ 未来への仕込み
- ④ 土台の再構築

# 事業別 主なアクション（進捗確認）

セグメント	アクション（2023年5月時点での計画）	進捗*
フィルム	<p>■ <b>収益の柱。収益回復</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包装用フィルム：一層の価格改定によるマージン改善。新ライン・新製品の本格立ち上げ</li> <li>・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。<b>新ライン建設</b></li> <li>・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応。価格改定</li> </ul>	<p>▲ ○ ○</p>
ライフサイエンス	<p>■ <b>ポストコロナ収益減の挽回と成長策実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ：PCR検査用試薬は売上減少も、海外向け原料酵素拡販。<b>リニューアル増産投資</b></li> <li>・メディカル：人工腎臓用中空糸膜は、<b>需要増への対応と一貫生産工場建設</b> 急性血液浄化市場、抗体医薬製造プロセス市場へ上市・新商品投入</li> <li>・医薬品製造受託：<b>FDA・WL対応・GMP体制</b>。販売回復と収益改善</li> </ul>	<p>○ ○ ▲ ○</p>
環境・機能材	<p>■ <b>東洋紡エムシー：立ち上げ（機能別組織他）。変革プランの実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ソリューション：<b>LIBS向けVOC回収装置の海外加速</b>。FO・BC膜の新用途立ち上げ</li> <li>・工業用接着剤：一層の価格改定と数量回復。エレクトロニクス向けの新製品開発</li> <li>・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。一層の価格改定と数量回復</li> </ul>	<p>○ ▲ ▲</p>
機能繊維・商事	<p>■ <b>要改善事業の対策実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアバッグ用基布：収益改善の為に一層の価格改定を実施。 <b>新原糸工場（タイ）の商業生産開始</b></li> <li>・衣料繊維：3工場の集約と海外拠点一体での事業運営による<b>収益回復</b></li> </ul>	<p>○ ○ ○</p>

\* ○：計画通り、▲：遅れ



※各指標は2020、2021、2022年度の平均値

## 事業ポートフォリオの組替え

- ①稼ぐ力の向上
- ②資産効率の向上

資本コストを上回る資本収益性の達成

**ROE ≥ 9.0% ROIC ≥ 7.0%**

(2030年度目標)

**PBR向上**

事業環境の変化、および今期業績予想の下方修正を踏まえ、  
2025中期経営計画の見直しを進めています。  
(2024年5月を目途に公表予定)

補足

# セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	22 年度					23 年度	
	1Q	2Q	3Q*	4Q*	通期*	1Q	2Q
フィルム	392	352	356	361	1,461	390	391
ライフサイエンス	87	106	100	88	381	81	84
環境・機能材	279	278	267	283	1,108	250	276
機能繊維・商事	222	232	223	248	924	222	235
不動産・その他	31	33	30	32	126	28	38
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,010	1,001	976	1,012	3,999	971	1,024

営業利益	22 年度					23 年度	
	1Q	2Q	3Q*	4Q*	通期*	1Q	2Q
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	16	12	2
ライフサイエンス	21	33	26	12	92	14	10
環境・機能材	9	12	8	11	40	▲ 7	10
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 25	▲ 7	▲ 1
不動産・その他	3	6	7	5	22	4	10
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 45	▲ 17	▲ 7
合計	46	33	17	5	101	▲ 1	24

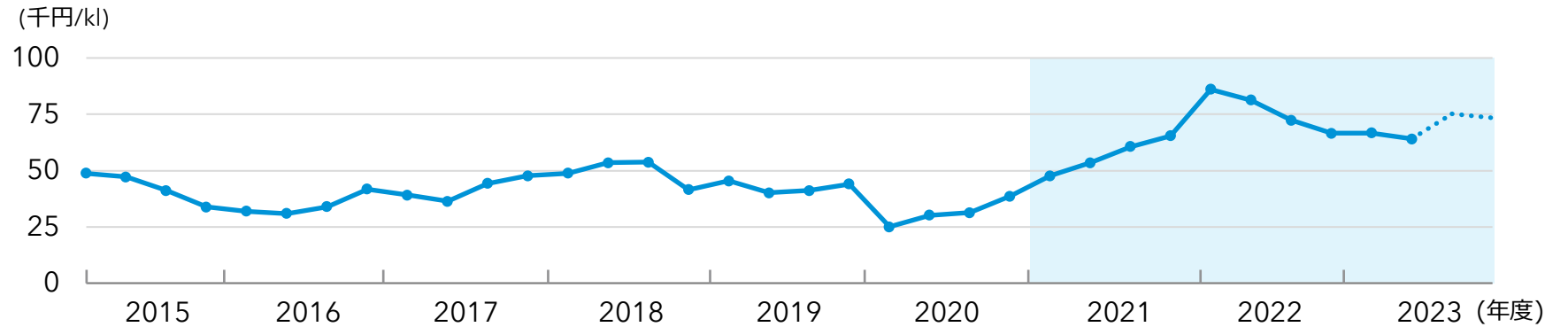
\*新セグメントでの22年度3Q、4Qおよび通期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

# 23年度の事業環境（下期見通し）

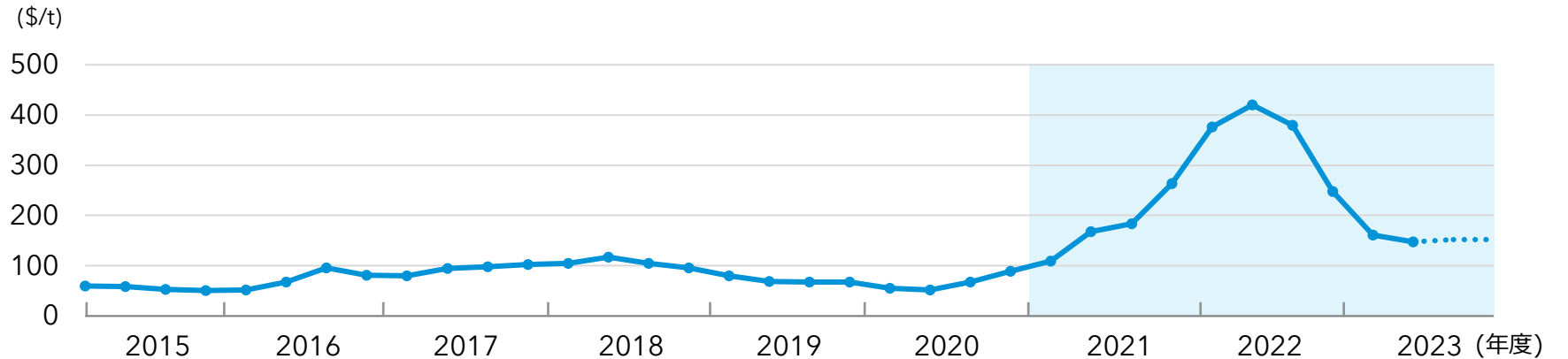
セグメント	事業	現状（23年度上期）	見通し（23年度下期）
フィルム	包装用	在庫調整の長期化で需要回復遅れ	在庫調整終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは中国向けの出荷堅調	需要堅調も出荷は一服
		MLCCはサプライチェーン全体での在庫調整	本格回復は4Q以降
ライフサイエンス	バイオ	PCR検査用試薬は5類感染症移行により需要激減	PCRは需要減
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産台数は回復	堅調に推移
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復遅れ	緩やかな回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置は受注堅調	需要堅調
		不織布マテリアルは事業環境の競争激化（衛材、土木）	厳しい競争環境継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産台数は回復	堅調に推移
共通		原燃料価格高騰の影響あり	高止まりの影響あり

# 原燃料価格高騰に対する価格改定

## ■ 国産ナフサ価格



## ■ 石炭価格 (豪州一般炭市況価格)



## ■ 当社「原燃料」「売値」影響 (前年度比増減)

※2023年度3Q、4Qは当社推定

(億円)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
原燃料 (A)	+71	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170	▲ 10
売値 (B)	▲ 61	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119	+50
スプレッド (A+B)	+10	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51	+40



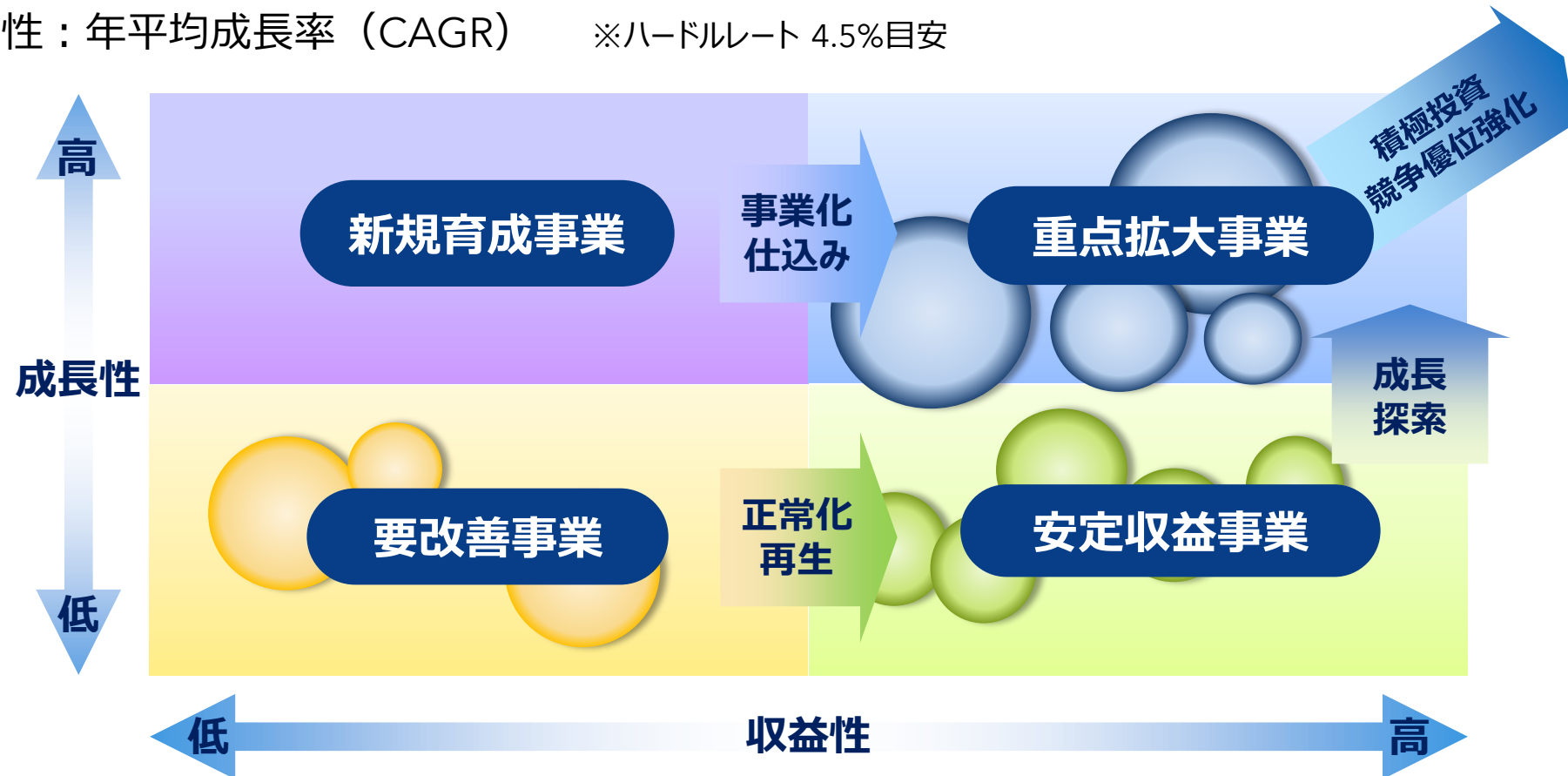
# 主な設備投資

セグメント	内容	投資金額 (億円、概数)	稼働開始
フィルム	・セラコン用離型フィルム 加工設備2号機 (敦賀)	60 <sup>*1</sup>	2022年下期 <sup>*2</sup>
	・OPPフィルム 生産設備 (犬山)	70	2023年上期 <sup>*2</sup>
	・セラコン用離型フィルム 製造設備 (宇都宮)	200	2024年下期
ライフサイエンス	・生化学診断薬用原料酵素 製造設備 (敦賀)	70	2024年上期
	・PCR検査試薬・遺伝子診断薬用原料 製造設備 (敦賀)	65	2024年下期
	・人工腎臓用中空糸膜 一貫生産工場 (秋田)	50	2024年上期
	・メディカル研究棟 (大津)	20	2023年下期
環境・機能材	・高機能樹脂 製造設備 (高砂)	80 <sup>*3</sup>	2023年下期
	・高機能樹脂 製造設備 (岩国)		2024年下期
機能繊維・商事	・エアバッグ用ナイロン原糸 生産工場 (タイ)	100 <sup>*3</sup>	2023年下期 <sup>*2</sup>
共通	・自家火力発電所リニューアル (岩国)	90	2023年下期
	・総合研究所 パイロットプラント棟	20	2023年上期
	・DX/IT基盤整備 (脱ホスト、ネットワーク・セキュリティほか)	80 <sup>*4</sup>	順次

\*1 : 1号機との合算金額 \*2 : 量産開始時期 \*3 : 合併会社の総投資額 \*4 : 中計期間中の総投資額

## 「収益性」「成長性」の2軸で各事業を4象限に評価・層別

- 収益性：使用資本利益率（ROCE） = 営業利益 ÷ 使用資本 ※ハードルレート 6.5%目安
- 成長性：年平均成長率（CAGR） ※ハードルレート 4.5%目安



- ・ハードルレートだけでなく、定性情報も含めて、「安定収益事業」か「要改善事業」かを見極める。
- ・当社グループ全体の資本効率性指標はROIC、各事業の管理指標はROCE

## 東洋紡グループ統合報告書「TOYOBO REPORT 2023」を公開

### 主な内容

- 長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」、「2025中期経営計画（2022～2025年度）」
- CEOメッセージ
- イノベーション創出ビジョン
- 事業別概況、CSV事例、特集「東洋紡エムシー始動」
- TCFDに基づく開示 など

### ダウンロードURL

日本語版：<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

英語版：<https://ir.toyobo.co.jp/en/ir/library/integrated.html>（11月公開予定）



## 「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の融資契約を締結

- 企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクトを包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資
- 2022年5月に策定した「サステナブル・ビジョン2030」で掲げた目標と、その目標達成に向けた取組みが、社会課題の解決に貢献できることを外部評価機関により評価された
- 本評価については、SDGs達成に対しインパクトを与えるテーマについて、外部評価機関より定性的・定量的に分析・評価され、また評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について第三者意見を取得

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

**TOYOBO**  
Beyond Horizons